

「ユニバーサルデザインで明るい未来へ」

大川小学校 六年 武田 龍之介

みなさんは、ユニバーサルデザインを知っていますか。ユニバーサルデザインは、障がいのある人でも経験や知識、言語能力に関係なく使い方が分かりやすく表されているものです。みなさんがよく見るユニバーサルデザインは車いすのマークや非常口のマークではないでしょうか。このようなマークは文字が書かれていないのに見ただけで意味を理解することができます。また、マタニティマークやヘルプマークをバッグなどにつけている人を見ると、その人が何を必要としているかやその人の気持ちを想像することができます。

そのことを実感したのは、バスでの出来事でした。僕がバスに乗って座席に座っていたとき、女の人が乗ってきたのが見えました。ちょうど座席が空いていなかったもので、その女の人ほぼくの前に立っていました。ふと前を見るとその女の人が持っていたバッグにマタニティマークがついていることに気がつきました。その時僕は、

「この女の人はおなかに赤ちゃんがいるんだな。バスの中で立っているのはきついだろかな。」

と思い、立ち上がって、

「この席、どうぞ。」

と声をかけることができました。あの時、マタニティマークがなければ、女の人が妊婦だとは気がつけなかったと思います。また、マークがあることで、お腹の中の赤ちゃんも守ることができたし、妊婦さんの立場に立って想像し、行動することができたと感じました。

今あるユニバーサルデザイン以外にも、こんなマークがあったらいいなと考えることが僕にはあります。僕にはハウスダストのアレルギーがあり、ほこりやダニなどに反応するとくしゃみや鼻水が止まらなくなりそうです。できるだけマスクをして、ほこりを吸わないように気をつけてはいるのですが、ある日、学校でそうじをしていた時のことです。友達が、僕の目の前でほうぎのほこりをブラシで取っていました。ぼくは、そのほこりを吸いたくなくなつたので友達に

「ハウスダストのアレルギーがあるから、向こうでやってくれないかな。」

と言うとその友達に、

「まだ症状がでていないから大丈夫でしょ。」

と、言われました。その時僕は、理解してもらえなかったことに対してもどかしさを感じました。見た目では分からない僕のようなアレルギーが分かるようなマークがあればいいなと思ったのです。

僕は、社会にもっとたくさんの種類のユニバーサルデザインがあつていいと思います。なぜなら、目には見えない障がいをもっている人や、助けを求めている人がたくさんいると思うからです。ユニバーサルデザインがもっと増えることで、お互いに助け合つて、配慮しあう明るい社会になると考えます。今ぼくができることは、まずは身近なところから家族や友達が困っていたら、何に困っているのだろうと想像して、自分ができる範囲でできることをすすんですることだと思います。そして、いつかはユニバーサルデザインがもっと普及して、暮らしやすい明るい未来になることが僕の願いです。